

令和6年度第2回京都府地域クラブ活動推進検討委員会（概要）

- 1 日 時 令和6年10月28日（月）10時00分から12時00分まで
※オンライン併用
- 2 場 所 京都府庁 福利厚生センター 3F 第1会議室
- 3 出席者 出席委員 柏木佳久、川合英之、中村裕予、長積仁、丹羽寛美、
5名（50音順・敬称略）
欠席委員 4名
報告者 八幡市教育委員会 1名
宇治田原町教育委員会 1名
精華町教育委員会 1名
綾部市教育委員会 1名
福知山市教育委員会 1名
舞鶴市教育委員会 1名
宮津市教育委員会 2名
オブザーバー 府スポーツ振興課 1名
事務局 井上保健体育課長、関係課職員、教育局職員
傍聴者 なし
- 5 内 容 (1) 開 会（司会 谷岡主幹兼係長）
(2) 委員長挨拶（座長 長積委員長）
(3) 議 事（進行 長積委員長）
報告事項「令和6年度地域クラブ活動推進事業の事業実施状況について」
(ア) 京都府教育委員会
(イ) 関連自治体（実証事業）
発表Ⅰ 八幡市（運動部）
発表Ⅱ 綾部市（運動部）
発表Ⅲ 宮津市（運動部）
発表Ⅳ 宇治田原町（運動部）
発表Ⅴ 精華町（運動部・文化部）
発表Ⅵ 福知山市（運動部・文化部）
発表Ⅶ 舞鶴市（運動部・文化部）
(4) 意見交流
(5) 閉 会

6 議事概要（●委員、◆関連自治体、○事務局等）

ア 報告事項「令和6年度地域クラブ活動推進事業の事業実施状況について」

(ア) 京都府教育委員会

【説明（事務局）】

○「京都府学校部活動及び地域クラブ活動推進指針」を作成し、市町（組合）教育委員会、首長部局へ指針の説明を実施した。

- 府スポーツ協会との連携により、市町村のスポーツ協会及び競技団体へ指針を説明し、府内への周知を図った。
- 今年度から、コーディネーターを配置し、市町（組合）教育委員会へのヒアリングを実施した。
- 国はワーキンググループにて令和7年度以降の方向性を示している。国の方向性も踏まえ、今後、検討を進めていく。
- 吉田コーディネーター
ヒアリングの詳細報告は2月検討委員会にて行う予定

(イ) 関連自治体（実証事業）①

八幡市（運動部）、綾部市（運動部）、宮津市（運動部）の報告

【質疑①】

●長積委員長

教職員や保護者に対する周知、情報共有について何か仕掛けていることはあるか。リアクションはどうか。

◆八幡市

アプリケーションを使い、保護者及び教職員向けに通信を作成し、八幡市版のモデルを作るという目標を掲げ、概要イメージ図を載せて発信した。また、市内4中学校それぞれの対象部活動に向けた保護者説明会を行った。マスメディア等で知っておられるかと思ったが、当事者としては感じていなかったと保護者から聞いた。今の部活動の状況を変えてほしくない。雰囲気は大事にしてほしい。しかし、新しい取組ということで希望もあるリアクションであった。

◆綾部市

生徒向けの入学説明会を各学校でされるので、その機会に合わせ、実証事業と部活動地域移行についてのチラシを配布したり、顧問の先生等を通じて進めていることをお伝えした。実証事業を進めていく部活動以外については、特に影響はなかったが、事業を進めるバレーボールと陸上競技については問い合わせもあった。事前の申し込みをお願いするということと呼びかけたところ、参加したいという声も聞いている。保護者へのアンケートの中では、新聞やテレビ報道の中での知識というところで、どういう形になるのかがわからない、実際に説明を聞いても今後の方向性が見えてこないといった意見があった。

◆宮津市

保護者向けのチラシを配布し、今後の方針、具体的な取組を伝えた。また、部活動と地域移行の地域クラブ活動にどういった違いがあるのかを説明し、チラシを配布した。それぞれの学校の校長先生とも連携をし、保護者への説明もしていただくようにしている。実証事業によりクラブ活動が始まり、顧問の先生からも生徒や保護者の方にも伝えていたり、今後の市の動きや実証事業として進めている部分については、保護者の方に周知していただけるように、地域部活動の改革ニュースといったチラシを作成し配付をしている状況である。

●長積委員長

早い段階で、どのようなことを自治体が取組もうとしてるかを発信することが必要だと考える。「今こんなこと起こってるよ」ということを一方通行だけでなく対話をする機会をぜひ作っていただけると良いと思う。

イ 関連自治体（実証事業）②

宇治田原町（運動部）、精華町（運動部・文化部）の報告

【質疑②】

●長積委員長

活動の際は平日と休日をという形で、2つのスタイルを作られている。活動が、平日と休日で変わること、何かお困りになっているところはあるか。

◆宇治田原町

平日と休日の指導者が変わるのかと思う。特に、吹奏楽においては指揮者が変わることで本当に実施できるのかと思う。

◆精華町

吹奏楽では、指導者が変わると指導されることが違うといったことを耳にするが、それぞれにねらいや目的が違ってあるので、子どもたちや保護者がニーズに応じて選んでいくと思うが、当初はそのような声がアンケートでも出ていた。

●長積委員長

2つの地域では、基本的に平日の活動と休日の活動は同じ活動をしているという認識でよいのか。

◆精華町

学校の部活動は部活動。吹奏楽団は楽団のねらいを持った活動となるので別々である。吹奏楽部ではない子どもが吹奏楽部の活動に休日加わることはないが、今後はそういうことも考えているように思う。

◆宇治田原町

本町は平日の延長でニーズに合った。例えば、顧問が日曜日は行けない場合に、行かなくてよかったと喜んでいるところもある。平日については、顧問が面倒見ることになるが、本町の場合、指導者が平日も空いた時間があれば、外部指導者として活動してきたという経緯がある。

●長積委員長

平日も活動ができるのであれば、融合もできると感じた。休日だけの地域では、平日の活動では学べなかったり、味わえないような体験、指導者を特別に行う「アカデミー型」みたいなことをしているところはある。豊橋市は平日3日部活動で、それ以外の3日は地域クラブ活動という形をとり、広域圏のクラブチームとして吹奏楽を楽しまれ、クラブチームとして大会に参加するという形をとっている。両方参加すれば休日が1日しかないが、学校の部活動のみの選択肢の子どももいれば、クラブ活動のみ選択、両方やするという選択も提供しているのが、豊橋市の部活動の吹奏楽のパターンである。

◆精華町

同じような形である。クラブで大会に参加するといったことは、ねらいにはしてない。基本の技術、基礎基本の向上をねらいとして行われている。

イ 関連自治体（実証事業）③

福知山市（運動部・文化部）、舞鶴市（運動部・文化部）の報告

【質疑③】

●川合委員

一番の課題は指導者の問題と思う。兼業兼職で現職教員を一回雇って見たらどうか。やりたい先生はいると思う。兼業兼職も許されるようになるので、現職の先生でクラブをみたいという方々を集め、その方々で組織化をし、クラブ化したらどうかと思う。

八幡市はスポーツ少年団が非常に活発なので、少年団と一緒に活動されたいと思う。

綾部市は地域のクラブが拠点校部活動、合同部活動等とおっしゃっていた。それを組織化し、その部活動をやりたい先生方が中心となって地域クラブにしたらかどうかと思う。

宮津市は、力強い地域クラブがあるので、そのクラブでできない種目を合同部活動、或いは先生方が集まって、別のクラブとしてやれたらいいと思う。

宇治田原町は、やっていることをクラブ化されたいと思う。文化活動で困っておられるが、1つ1つの町で、その文化活動を行うのは難しいので、近くの町と協力したり、或いは中学生だけでは集まらないと思われるので、地域の大人の活動と一緒にやってもらう。ブロック別に北部とか南部というような形でブロックごとに地域の活動を行う。そういう仕組みができたらかどうかと思う。

福知山市は、移行のことを去年から話されているが、総合型クラブ化されると責任の所在が明確になり、安心安全の保険をかけて運用されると、保護者の送り迎えもその中に入っているので、学校の責任ということにもならない。クラブがしっかり形になれば、すべての責任の所在がクラブになるので、保護者の事情は認められるし、なかったときはクラブの保険で対応することになるので、そのあたりでお考えいただいたらどうかと思う。

舞鶴市は、今実践されていることをそのままクラブ化する。特に活動を希望する先生が多いので、そういう先生が集まってクラブ化するとやりやすくなる。クラブ化されることによって責任の所在が明確になるので、動きやすくなると思う。

大会のことに限っては、中体連に関係するので指導者、特に地域の方々にわからないと思う。

兼業兼職の先生を認めていただく。退職の教員、子どもたちの接し方を学べる教育系の学生、保護者の方々が指導者に資格を取っていただいて、クラブ化していただく。指導員が子どもたちに安心安全に取り組むをしていただいているので、今の課題を進めながら、やっていただいたらと思う。

●長積委員長

今言っていたことが、次のディスカッションに繋がってくると思う。

福知山市は民間に運営を委託するとのことだったが、その財源の確保の問題をどうしていくのか。

舞鶴市は、新しいスタイルを進めるために一定期間部活を停止するということだが、学校の理解がなければ難しいことは確かだが、頑張っていただければと思った。

○藤野総括指導主事

事前に実証事業をいただいている市町に質問をしている。

スポーツ庁の参考資料として、改革の理念から、学習指導要領における取り扱いまで、それぞれ骨子案が示され、それぞれ、ワーキンググループの中で議論をなされた。

事前質問でいただいた内容にあったが国の方向性が示されたので、参考にいただければと思う。

ポイントとなるのは、「地域移行」という名称が「地域展開」となるということである。

本日来ていただいている皆様もそうだが、日本全国に良いモデルがあり、活用し、どんどん進めていただきたい。

改革期間のあり方について、令和5年～7年が推進期間、その後、改革実行期間として、6年間を目安にということが示されている。中間評価までに3年間、その後3年間といったことが書かれているので参考にいただければと思う。

綾部市からもあった大会のあり方の部分は、中体連で昨年度から研究、検討をされているところである。

宮津市からもあったように、運営面であつたり、日程といった方向性の議論が継続中と聞いているので、そういったことも踏まえて、この後、協議いただければと思う。

●長積委員長

組織運営は、ヒト・モノ・カネ・情報・経営支援なので、部活は難しくなることがある。

お金の話は、人材の確保の面で川合委員から幾つか挙げていただいた。人材バンクをどうしていくのかという意見が結構あったので、いくつか御意見いただければと思う。

●川合委員

人材バンクにどんどん入ってもらうように推奨していけばいいと思う。兼業兼職の教員、退職教員、学生、地域のスポーツ指導者に限って人材バンクに登録することではなくて、そういうところを広げていけばいいかと思う。

●中村委員

スポーツ少年団で5年ほど活動してきたが、指導者の資格を取得していただくための費用を確保することが重要だと感じている。地域移行に伴い、若い指導者の確保が課題となっているが、少年団では資格を取得するための費用を負担し、地域の推進委員や指導者を育成している。

小学校だけでなく、中学校でも指導者が活躍できるようにすることが重要である。他の市町の様子もスポーツ協会で聞いているが、小学校でも連携が大事だと感じた。連携して子どもたちを育てるために、どのように資金を使うかが重要である。

小学校での活動の継続に向け、ボランティアや指導者が中学校でも活躍できるようにすることが必要であり、中学校でも小学校でも活動が終わらないようにするために、他の管理状況も見ながら、多くの子どもたちに参加してもらうことが大切である。協力と連携が重要であり、もう少し検討が必要だと感じている。

●長積委員長

総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の方々は、部活動の改革に関するところで二の足を踏まれたような感じがあるが、部活動はすべてが競技力向上ばかりではないと思う。

競技力を高めるというニーズに対しては、それに応える競技団体との連携が必要かと思うが、いろいろなニーズがあるということを踏まえ、そういう方々が加わっていくことで、1から10までお膳立てし、場をプロデュースしていくスタイルで部活をやっていくのも1つの手なのかなと思う。

少年団の多世代化が1つ鍵を握っていると思う。群馬県ではスポーツ少年団で小中の連携をとられているところがあり、今年度、中体連から種目が外れているところの少年団の方々はすごくチャンスと思っているそうである。つまり、中体連の大会に縛られなく、小中で世代型を図り、子どもたちを育てる仕組みを作ることをしているところもあるので、そのような活用をすればいいのかなと思う。

人材バンクを作ることは重要だが、30年ぐらい前からどこの地域も言われたが、バンクそのものに有効性があるかよりも、どのように機能させるかが一手間である。地域の人材と学校というニーズをコーディネートする一手間を工夫しておかないと、バンクを作ると万能のように思われるが、地域と指導者をつなぐ連結のところを、一手間加えることが重要かと思う。

議題の2つ目は、どのようなパターンで運営を進めていくか。実施の運営主体をどのように進めていくかが重要だということである。先日のセミナーで、現場の地域クラブの方々から「指導はしても良いが、管理運営までは勘弁してほしい」という意見があった。そこで、どのような実施運営体制で問題を解決していくかについてアドバイスをいただければと思う。

●柏木委員

スタート段階で保護者理解が得られないという難しい問題があると感じた。教員の働き方改革が前面に出ると、保護者の理解が得られにくい。各市町が切実な課題として持っているのは、このままでは中学校の部活動が成り立たないということである。少子化の問題で成り立たない。そのあたりをし

っかりと訴え、地域に展開していくことで、子どもたちの文化・スポーツ環境を整えていくことを理解していただく中で、受益者負担の問題、送迎の問題などを理解していただくように努力するしかないと感じた。

実施運営主体の問題であるが、実証実験中は行政が主体となって進めていたが、実証実験が終わると、それぞれの実施運営団体に任せなければならない。各地域の資源をどう捉えていくかが重要である。

話を聞いた中で、高校を1つの拠点として進めていきたいという意見もあった。開放型の地域スポーツクラブもある。また、開放型でなくても、子どもたちのスポーツ教室を実施したいという学校もある。その辺りも含めて、地域の高校と連携・協力を模索していただければと思う。

スポーツ団体は各市町にスポーツ協会があり、ある程度統一したスタイルになっているが、文化団体は縦割りで進んでいるところが多い。地域の実情が様々だと思う。まずはコンタクトを取り、何ができるかを模索していただければと思う。

宇治田原町の話聞き、難しいと感じたのは、一町一中しかない中、他の中学校との交流が難しいことである。そうすると、多世代の交流を進めるしかないと思う。町の人口も多くはないが、世代交流を進める中で、総合型地域スポーツクラブ、多世代多志向という形が根付いていけばと思う。

今ある資源を有効活用すること。中学校の部活動の地域展開を契機に、地域の文化・スポーツ活動を発展させるという逆の発想も大事だと思う。

●長積委員長

財源を確保できる仕組みは、一般社団法人を作り、部活動地域改革を推進する部局を作るという方法もある。ふるさと納税や企業からの寄付などがあるが、行政がスクラムを組むこともあるかと思う。

もう1つの可能性として、地域学校協働本部の協働活動の中で、学校の問題を地域の課題として捉え、協力を求めることが1つの方法だと思う。地域スポーツクラブのときと同じく、対応を重ね、どんな組織体制で協力関係を築いていくかを検討すると良いと思う。

3つ目の議題は、「受益者負担」を求めなければならないということ。どのように財源を確保し、受益者負担を求めるか、今日の部活動改革に関することである。文化活動やスポーツ活動を変革することで、生徒の保護者の意識がどのように変化したかについて伺いたい。

◆舞鶴市教育委員会

「受益者負担」については、検討課題である。

今年度は保険料を保護者に負担いただくことを検討していたが、実証事業をしている競技とそうでない競技とで差が出ることが課題であることから見送った。地域スポーツクラブになったとき、経済的に困窮する世帯の子どもの支援制度を作った上で、受益者負担を求めることを検討している。

●長積委員長

学校管理下の活動として行っているときは、教育行政の範囲内で財源を確保し、用具や場所の確保ができた。しかし、学校管理下外の活動になると、どこに支援ができるのか、行政の仕組上、難しいという話を聞いた。

学校管理下外になったとき、経済的に困窮している家庭をバックアップできる条例や仕組みが必要だという意見をいただいた。受益者負担についても、経済的に困窮している家庭にはバックアップできる仕組み、セーフティーネットを作り、一定の負担を求めていかなければならない。

「受益者負担」について、宇治田原町の話があったが、今までと同じ活動では「受益者負担」を取るときに「なぜ、今までと同じなのに急にお金を取られるのか」という話になる。保護者の方々に納得してもらうためには、何がネックになったのかを明確にする必要がある。これまでとは違い、新し

い機会を提供している。新しい質の高い専門的な指導者を得ている、活動の幅が広がったなど、今までの部活動でできなかったことの理由を示すことが重要である。それが中学生のお子さんの活動だけでなく、地域全体の発展にどのように寄与するかを問いかける必要がある。

●丹羽委員

保護者の意識については、大きな変化は見られないと思う。ただ、お知らせなどで地域移行することが伝えられると、何が変わるのかが理解できていない。何が変わり、どうなるからお金がかかるのかという理由をしっかりと持つことで、保護者の理解を得やすくなるのではと思う。

質の高いクラブチームに入っている子どもたちは多く、学校のクラブが成り立たないところも多い。例えば、地域で野球をしている子どもたちが学校では陸上部に入り、その子どもたちが部活動で遠くへ行くことが負担になることがある。部活動は疎かになり、面倒くさいから行かないということがあえる。しかし地域に移行することで、近い場所に行けるようになり、子どもたちの負担も減る。子どもたちも前向きにクラブ活動に打ち込むことができ、精神的にも安定する。その子どもたちを見ている保護者も、安心するのではないかなと思う。そういった利点は非常に大きいのではないかなと思う。

合唱は人口が少ないため小学校でコンクールに出場していたものの、中学校では合唱部がないため、5つの学校合同でコンクールに出場し、金賞を取ったという話があった。こういった横の繋がりができること、地域クラブや部活動が地域に移行することで、より子どもたちの活動の幅が広がることは非常に良いのではないかなと思う。

●長積委員長

我々が今取り組んでいる活動がどのような方向に向かい、どのようなことに繋がっているのかを発信する必要がある。新しいスタイルを受け入れてもらうことで、子どもの生活が豊かになるだけでなく、家庭環境や地域の環境も良くなる。中学生の成長に繋がることを伝えることで、保護者の理解も得やすくなるのではと思う。今までのことだけでなく、新しいことができるようになり、保護者の方も良かったと感じるのではないかなと思う。

将来的に自走化することになる。実証事業が資金的な援助を受けている間にビジョンを持ち、どのような取組をしていくのかを考える必要がある。京都府自体がどのように支援するのかという意見もあったので、その点についてもお話ししたい。

◆舞鶴市教育委員会

舞鶴市にはいくつかクラブチームがあり、「自走」している状態である。

実証事業に参加しているクラブには報酬が出ているが、報酬を目的にしているわけではない。ただ、新たに立ち上げる場合にはお金が必要である。道具や場所、指導者への謝礼などが必要である。指導者の立場からすると、保護者から多くのお金をもらって自分の謝礼にするのは心苦しいという意見もある。自走するために準備金として保護者からお金をもらうことはできるかもしれないが、行政からの補助が少しでもあると助かる。最初から自走するのは非常に難しいと思う。

実際に「自走」しているクラブも多く、生徒もたくさん参加している。自走に関しては、スタート時点でのお金が必要というのが現状である。

◆福知山市教育委員会

「自走」まではまだ考えられていない。今後、舞鶴市が言われた財源がどうなるかも含めて実証を進めながら検討していきたい。

◆宇治田原町教育委員会

学校の部活動をそのまま同じ活動として続けることに意義を感じている。何が新しくなったのか、同じ活動が難しいのか、何が変わるのかといった点が理想のように感じられる。実証事業を通じて見

つけられたら良いと思う。実証まではまだ至っていないが、平日と同じ活動を続けようとしているのが現状である。

●長積委員長

変わらなければならないかどうかは地域で考えていただくことだと思う。教育委員会が守っていくのも難しいかもしれないが、その時は財源をどうするかを考えなければならないと思う。

◆精華町教育委員会

土日は部活動とは切り離し、習い事として、土日にスポーツ活動を親しめる環境づくりを目指している。

最初から受益者負担の形を取っている。スポーツに関しても、既存の団体に中学生の会員が増えるという考えで、団体の方には理解してもらっている。参加費については受益者負担という形で進めている。

◆八幡市教育委員会

令和8年度に向けて、休日は地域に展開し、平日は学校活動で行う。「受益者負担」についても今後検討していく。まだ難しい部分もあるが、進めていきたいと思う。

◆宮津市教育委員会

今後、持続可能な活動をしていくためには「受益者負担」は外せないと感じている。行政としても何か支援ができる部分を考えたいと思う。

3つの種目の中で、フリースポーツは実証事業からの支援はいらないと、自分たちが「自走」しているのでこの形でやりたいという話があった。10年以上前から活動されているので、「受益者負担」で運営されている。陸上競技でも、指導者の方からお金を払って入る価値のあるクラブチームにしたいという意見があった。保護者の受益者負担については重要だと思う。

◆綾部市教育委員会

まだ、「自走」のところまでは考えていない。

現在、陸上競技やバレーボールの教室を開いているが、指導者が謝金を受けると、今までのバランスが崩れてしまうため、基本的には交通費程度の謝礼で行っている。協会に支払っている部分だけでは赤字になっているところもある。

他の競技もあり、今後、どのような形、どの段階で移行できるかを検討している。一方は部活動が残っていて、もう一方は移行してしまうと、負担の違いが理解されにくい部分がある。今後、検討していく必要があると思う。

◆長積委員長

地域に応じた仕組みづくりがゴールだと思う。

お金の問題や人の問題、組織体制の問題が重要になる。経営協会の影響や検討委員会の中で、引き続き取り組んでいただければと思う。京都府のバックアップ体制も踏まえて願います。

○藤野総括指導主事

これまで取り組んできた全国の事例や、先行している部分で直面した課題をクリアするために、京都府がどのように進んでいくかを考える。全国の事業が参考になり、国の新たな方向性も示される中で、府の活動を推進し、良い形にしていきたいと思う。京都府は府内各地で実際に進められる取り組みをしっかりとフォローアップしていく。